

SDGs～持続可能な取組～



知ろう！守ろう！日本の生き物たち

大和郡山市立矢田南小学校

5年

国語・総合的な学習の時間

めあて

日本で多くの生き物が絶滅の危機にあることを知り、その生き物の現状や現在行われている対策を調べたり、自分たちにできることを考えたりする

【固有種新聞】

①取組にいたった経緯

国語の学習で「固有種が教えてくれること」を学習しました。国語としての目標は、統計資料の読み方を学ぶことです。子どもたちはこの単元を学習する中で、国語の教科書に掲載されているQRコードの環境省のページから、説明文に出てこない生き物にも興味をもちました。そこで、自分が興味をもった生き物について調べ、ロイロノートで新聞にまとめる活動を総合的な学習の時間に取り組みました。

②児童の感想

「自分の知っている動物が絶滅の恐れがあると知って驚いた。」「人の活動が、減少の原因と知った。」「人間が保護したり、環境を守ったりしていくことが大切だと思った。」

③成果と課題

児童は互いの新聞を見ることで、様々な生き物が絶滅の危機に瀕していることを学びました。今後は児童がその生き物を守ったり、その生き物が住む環境を守ったりすることを主体的に考えられる機会を与えていくことが大切だと考えています。



シマフクロウ 新聞

発行者：
発行日：11月30日

シマフクロウの特徴：冠にも見える大きな耳羽とたくさんの羽毛に覆われた体です。なぜでしょう？これは厳しい自然で生活するための天然防寒具です。シマフクロウは日本版レット・テータ・ブツクで絶滅危惧種I Aランクに指定されています。

シマフクロウの減少原因：
主要な餌である魚類の減少です。森林の伐採による営巣地の減少などが、考えられます。
シマフクロウの天敵：
最大の敵はカラスです。野生のシマフクロウは、蛇も大嫌いみたいです。
生息数は、約70つがい
160羽だそうです。
生息地は、日本では北海道および北方領土に生息します。

調べて分かったこと：
・生息数は、160羽しかない。
北の方にしか生息しない。
感想：
カラスが、敵と知って驚いた。
体を触ってみたくなくなった。

シマフクロウは、アイヌ民族の中では、守護神として、敬われてきたそうです。寿命は、30年程度と長いです。
鳴き声は、オスはウオツウオツと鳴き、メスは、オーと鳴きます。このためウオツウオツウーと一声のように聞こえます。